

各コミスク プロフィール

平成 6 年 3 月芦屋のコミスク活動より抜粋
その当時のコミスクの方々に、執筆いただきました

三条コミスク（昭和 53/1978 年 9 月 1 日創立）

昭和 53 年 9 月に発足した三条コミスクは、芦屋市で最初に生まれたコミスクとして期待され、長い間慎重に運営してきました。16 年目を迎えた今も、発足当時から、自治会長様や老人会長様も役員を続けられています。

スポーツ活動、文化活動を通して「育てよう、広げよう、地域の輪、心の輪」と地域の活性化、連帯感、まちづくりへと発展しています。中でも、子供会、老人会の協力が大きく、まさに、三世代交流の場がコミスクの場です。また、代表的な行事として、夏の夜の集い、運動会のほか、三条校区にある、3 つの「だんじり」を使って、子供達、お母様、お父様達の大きな力で、2 日間のお祭りを盛り上げています。お祭り、商店街の行事等の話し合いもコミスクの場を利用します。

行事の実施に当たっては、三条地区福祉推進委員会、学校、山手商店街の青年部などと一緒に運営進行し、コミスク役員だけが肩肘張ってするのではなく、誰もが主役になっていただく場を用意しています。「こんなことをやりたい」と申し出があれば、実現できるように演出し、活動していただく場を考えるのがコミスク役員の楽しみと思っています。

コミスク運動会の参加賞にチューリップの球根をもらったのですが、今年も小さな花ながら咲きそうです。役員をしていますと、毎年の参加賞が気になりますし、園芸教室で作ったベゴニアのハンギングバスケットの育ちが悪いお宅の前を通れば、日当たりが…。地域の皆様に根付いて繰り返し行われるコミスク活動。元気一杯、これ以上できないくらい精一杯活動しています。

地域の皆様からの確かな手応えを感じる時、嬉しい笑顔に接する時、私たちが最も幸福なのです。これからは、地域の輪、心の輪がまた一つ増え、広がるように、上手に世代交代をしていきたいと思います。地域の皆様のご協力とご指導をお願いします。

朝日ヶ丘コミスク（昭和 54/1979 年 11 月 27 日創立）

朝日ヶ丘コミスクは、芦屋市で 2 番目のコミスクとして誕生し、平成 6 年に設立 15 周年を迎えます。

設立当時、朝日ヶ丘一帯は開発途上の新興住宅地であり、次々にマンションが

建設されて新しい住民が増加し、また自治会組織も不備の状態で、地域住民の連帯感は育っていませんでした。「コミスク」という言葉も住民にはまだなじみが薄く、「コミスクって何?」という人に、コミスクの存在を理解していただくための啓発や活動への参加を促すための運営委員会の苦労は大変なものでした。

コミスク設立以前から地域で活動していたスポーツサークル、趣味のグループ、子供会などが登録団体となり、スポーツや文化活動を通して生涯学習の一翼を担うコミスク活動の母体ができ上がっていきました。5周年を迎えた頃から、ようやく住民の自主運営の組織づくりが整い、年を経るごとにコミスクへの理解も深まり、活動内容も充実して行事への参加・協力も得られるようになりました。

現在では、登録団体も37グループ(地域団体12、文化部11、体育部14)になり、仲間づくりや三世代交流の場として地域全体へ活動の輪が広がりつつあります。

朝日ヶ丘コミスクは、人と人とのつながりの薄れがちな生活環境の中で、地域住民が連帯感を取り戻し、地域福祉の主体者として住民自らが手づくりの温もりのある町で、次の世代を担う子供達の健やかな成長を望むとともに、近隣や世代間交流の中で、心豊かな人づくりと、より豊かな潤いのある地域生活の実現をめざしています。

こうした理念に基づき、朝日ヶ丘コミスクは、登録団体の代表や地域のボランティアで組織された「運営委員会」で、住民参加の年間行事を企画しています。また、運営委員会経験者(0B)で「オレンジクラブ」を組織し、経験を生かしてコミスク行事に協力するとともに、コミスク運営の後継者を育てる重要なバックアップの役割を担っています。

潮見コミスク(昭和56/1981年4月5日創立)

ニュータウンと呼ばれたシーサイドタウンですが、昭和54年3月に入居が始まり15年過ぎた今では、生活環境の必要条件が整備され、新興住宅地のもつ、ぎこちなさもなくなり高層、テラスハウス、一戸建てなどの家々が公園、学校等にすっかりとけこみ、シーサイドタウンらしい街並みになってきました。市内3番目のコミュニティ・スクールとして昭和56年4月にうまれた潮見コミスクは地域住民によりコミュニティづくりの核となりつつあります。

コミスクの活動は、地域の学校施設を利用し、文化、体育、レクレーション等の活動を通じて、連帯感や近隣社会の創造や推進を目的に活動グループや、地域の人々により運営されています。

発足当初はスポーツ活動にバスケットボール、バレー、バトミントン、卓球、健康体操、野球、少年野球等々があり、文化活動としては、読書会、コー

ラス、英会話等々の活動を行っていました。また、コミスクをシーサイドタウン住民に知つてもらうために「コミスクだより」を発行し、参加を呼びかけてきました。

12年を経た今では、少年野球や少年サッカー、ゲートボール、日本拳法、空手、剣道、生け花、書道、金管バンド等子供から大人まで様々なサークル活動が活発に行われており、また老人会の皆さんのが中心になり、学校の花壇を利用しての花づくりを通じて、小学校の子供たちとのふれあいがあります。

サークル活動だけでなく地域住民が誰でも参加できる諸行事を運営委員会で企画し、スポーツ大会や夏休みのラジオ体操、中央公園での夏祭り、星空映画会、プール開放、秋には恒例の「シーサイド寄席」などのユニークな行事も開催しています。

中でも、夏まつりは企画から準備、実行に至るまで全て手づくりで毎年盛大に行われ、今やシーサイドの夏にはかかせない行事のひとつとなっています。

また、5回を数える「シーサイド寄席」は子供たちになじみの薄い落語を、家族そろって気軽に楽しめる地域寄席として定着しつつあります。

このように年齢の異なった人々が自由に参加し、生涯学習の最も身近な活動の場として発展することを目的にサークル活動や地域活動に取り組んでいます。

コミスク活動の今後の役割として社会環境と住民意識の多様化のなかで、地域のふれあいとニーズに根ざした活動を続けたいと望んでいます。

宮川コミスク（昭和57/1982年12月19日創立）

1982年12月、宮川コミスクが誕生しました。地域内の自治会、町内会の協力や教育委員会の指導、助言により発足に至りました。その目的とするところは、第1に学校施設を地域に開放して、住民の活動の場を提供することであり、それによって生涯学習とよばれる、何歳になっても、文化、スポーツ活動ができるようにして、地域の仲間づくりを推進すること。第2には地域全体の事業を行い、地域全体としての連帯感を養うというものです。

皆さんが、ちょっと時間があって、それが文化的趣味であれ、スポーツであれ、何かしたいと思われた時には、何が必要ですか？それは、最初に同じ意思を持った仲間です。仲間を探すのは簡単ではないでしょうか。ご近所の人達に声をかければ良いのです。同じ考え方を持っている人達は必ずおられます。そして次に問題なのは活動場所です。確かに有料の会場を借りることはできるでしょうが、お金がかかります。自分の趣味のためにそんなにお金をかけられないでしょう。そんな時にコミスクに行けば良いのです。一人ではできないけれど、みんなで行けば場所も無料で確保できるし、やりたい活動ができるのです。それがコミスクというものですし、コミスクはみんなのためにあるのです。

「明るい豊かな街(コミュニティ)」とはどんな街でしょうか?一言では言い切れませんが、行き交う人々が明るく挨拶をし、楽しく会話がはずみ、いつでも時間があれば楽しい仲間と集まれる場所がある。そういう街のことだと思います。そういう街づくりのためには、コミュニティの輪を広げ、地域の連帯感を促進しなければなりません。その第一歩が「出会い」です。同じ地域に住んでいても、なかなか知り合うキッカケがないと、知り合いにはなれません。知り合いになれなければ仲間づくりは不可能です。そのキッカケづくりをお手伝いするのが「コミスク」です。また、それがコミスクの大きな目的です。同好の人々が集まる、文化、スポーツの団体が参加するという手身近なことから、幼稚園児からお年寄りまで一緒に集まりスポーツを楽しむという 1,000 名を越すスポーツイベントまで、色々なキッカケづくりを実行しています。このようなキッカケづくりが「明るい豊かな街づくり」へ貢献するとコミスクは考えます。

宮川コミスクの地域活性化の集大成ともいえる事業が「国際スポーツフェスティバル」です。この事業には必要な要素が多く含まれています。

- ① 町別対抗になっているので、町単位での連帯感が異常に盛り上がり、ひいては全体の連帯感につながる。
- ② 年齢別の参加のために、老若男女が連帯して一つの競技に協力し合うことにより、三世代間の交流が実現する。
- ③ 宮川コミスク地域の海技大学校で研修し、生活している 80 名ほどの外国人研修生を住民扱いして参加させているので、スポーツを通しての貴重な国際交流の場がある。
- ④ 常々家にこもりがちな人達にスポーツの楽しさを経験してもらい、「スポーツ・フォア・オール」を提唱する芦屋市の方向性に合う。

しかしながら、あくまでこのような事業はキッカケづくりに過ぎず、その後の知り合った人達とコミュニティの輪をどう広げていくかが楽しみです。

色々な社会団体・文化団体・スポーツ団体が登録して、体育館、コミスク室、グラウンドを使用して毎週活発に活動しています。また、各種の全体活動も企画していますが、もっとより多くの人に参加してもらうための施策も今後考えていかなければなりません。

終局の目標である「明るい豊かなコミュニティづくり」のためにもっと気軽に参加できるコミスク活動を実践していきます。

打出浜コミスク（昭和 57/1982 年 12 月 19 日創立）

打出浜小学校が宮川小学校から分離して昭和 57 年に開校し、同年 12 月に芦屋で 5 番目のコミスクとして「打出浜コミスク」が発足し、平成 5 年、打出浜小学校と共に 10 周年を迎えることができました。私たち打出浜コミスクも、「地

域と学校」「地域と地域」の親睦を目的として発足しましたが、教育委員会の要請で発足した当時は、「学校施設を利用することによって地域のコミュニティを深める」という趣旨が十分理解されず、ともすれば、貸施設的な活動になりがちで、多少の混乱もありましたが、校区内の各自治会のご努力と、創立当時の打出浜小学校の歴代の校長先生をはじめ全教職員のご努力により、年々の成果が挙がっています。

この10年を振り返りますと、ミニバスケットクラブが過去4度も全国大会に兵庫県代表として出場したことと、約100名の児童たちを「打出浜少年少女訪中団」として北京、天津に派遣したことなど、打出浜コミスクの活動グループの華々しい活躍が思い起こされます。

また、地域行事においても、春の運動会・夏の盆踊り・秋のスポーツ大会とますます盛んになってまいりました。

打出浜コミスクの運営は、校区内の5つの自治会・子供会・老人クラブ各活動グループの代表者・体育指導委員・打出浜小学校及び育友会・民生委員で構成されていますので、いかなる行事もスムーズにこなせるようになっています。

打出浜コミスクの特徴は、事業への協力や参加に対して、打出浜小学校や精道中学校の先生方の理解が得られること、旧国鉄時代の貸車を改造した倉庫、軽トラック、夏の盆踊りに必要な備品、縁日に必要なかき氷機・綿菓子機等の備品が揃っていることです。

しかしながら、打出浜コミスクも発足して11年目になりますが、どこも同じことは思いますが、地域住民の高齢化と子供の減少に伴い、例えば運動会を開催したくても、自治会対抗プログラムを組んでも「我々の町会ではチームが組めない」等の意見があり、なかなか実行できないのが現状です。

打出浜コミスクも、目的を逸脱しない範囲でコミスク活動を考えなおし、打出浜小学校を核にして、今後とも地域と学校が共に手を携え、地域社会の発展と「心のふるさと」のまちづくりになるよう、発足当時の原点に差し戻って、これからコミスク活動を考えていきたいと思います。

小学校も第2土曜日の休日の実施に伴う校庭開放事業も軌道に乗ってまいりましたので、何とか、第2土曜日の休日を利用した企画とともに、生涯学習の場としてのコミスクづくりに努力していきたいと思いますので、地域住民の積極的なコミスクへの参加を願っています。また、行政におかれましても、今後のコミスク運営の方向づけの指導をお願い申し上げます。

浜風コミスク（昭和58/1983年12月4日創立）

浜風コミスクは、平成5年度は創立十周年の年に当たり、役員一同心を引締めて運営に活動にとり組んで来ました。

埋立て地と言う立地条件の中での地域づくりのむずかしさを、折りに触れては感じ通した10年間であった様に思います。しかしその年月は、心もとない若木も逞しく成長し、時には木陰を・時には爽やかな葉づれの音を・そして秋には葉を落として暖かい陽射しを届けて道行く私達に語りかけてくれる様になりました。

新しい街の人々の心には何かはわからないが、漠然とした不安が湧くもので、整然と美しく整備された街で人々は孤独に耐えて自分と家族を守る事に精一杯の時期も在ったことと思います。しかし此の10年と言う歳月は人々の心にも、安心を育みコミスク活動にも潤いと思いやりも加味されてきました。活動の在り方にもパイオニア精神で取り組んだ人々もあった事と思いますが、特に伝統のない地区での子供達の故郷づくりの試行錯誤に心を碎いた人々も少なくありませんでした。

その結実の一つとして、特筆すべき事項が平成4年度を第1回として始まった『どんど焼き』の行事として実現しました。これからの浜風コミスクの発展に又地域の交流の原動力に、益々重要な位置付けとして定着して行く事を期待いたします。

またスポーツ・文化の活動にも、特技を生かす人・趣味を生かす人、活動に参加することによって身につけたい人などの、目的を持ったクラブ活動の10年間の実りも見えて、嬉しい出会いの機会も増えてきた様に思います。特に子供のスポーツクラブでの活動には子供を中心に両親はじめ大人の方々が、ボランティアで監督・コーチ等の立場で自分を生かし地域の子供達とのふれあいにも大きな役割を果たしています。コミスク活動で経験した事が成長して21世紀の社会で生きて行く時、豊かな感性と暖かい人間関係を構成する基盤となることを願っております。

岩園コミスク（昭和58年12月10日創立）

岩園コミスクは、昭和58年12月に市内で、7番目に発足致しました。岩園小学校には、発足以前よりいくつかの同好会があり、小学校・幼稚園の施設をお借りして、サークル活動をしていました。その後、芦屋市コミュニティ・スクール構想の推進により、それらの同好会を中心に、新しいクラブも発足して、岩園コミスクが誕生しました。以来、登録団体の代表が幹事会役員として、毎月の定例幹事会に集まり、コミスク活動の運営に当たっています。

10年を経た今、発足当時より登録団体の数も増え、さまざまなサークルが誕生し、じょじょに活動の輪も広がってきました。

岩園コミスクは「めだかの学校」の歌にもありますように、誰が生徒か、先生か…、みんなで楽しく教えられたり、教えたりしながら、地道な活動の積み重ね

の中で、『子どもも大人も共に育つ』をモットーに、こころ豊かなひとづくりに、今後も精進したいと思います。

今年、岩園コミスク設立 10 周年を迎えてオリジナル「岩園コミスク音頭」が出来ました。作詞=前田芳宏先生・作曲=高山淳先生・振り付け=石原喜津恵先生、です。今年度、夏祭り盆おどり大会で、盛大にご披露いたしました。

歌詞

1. 春は桜の花霞み 山ふところに湧き出て

澄んだ流れの宮川や 清い心を育てよう

*コリヤイイジャナイカ ヨイヨイヨイ

岩園コミスクイイジャナイカ

大きな心の輪をつくろう。

(2・3・4 番略)

精道コミスク（昭和 60/1985 年 3 月 30 日創立）

昭和 60 年 3 月 30 日、市内 8 番目のコミュニティ・スクールとして、開設、創立 120 年の歴史と由緒を誇る精道小学校を活動の拠点としています。エリアは、12 町・5,000 所帯、開設当初より地域住民のニーズに応える活動はどうあるべきかを模索し続けてきました。

かつて学校は地域の文化センターであり、「おらが村の学校」という意識が人々のなかにありました。いつの間にかだんだんと希薄になり、自分の子どもが学校を卒業してしまうと、もう学校との縁が切れてしまい、そして近隣との関係もうすれ、人々は、地域の中に孤立していったのです。

そんなときに、このコミュニティ・スクールの構想が導入され、初めのうちは本当に試行錯誤の繰り返しで、その繰り返しと積み重ねの中から、新しい人々の輪が広がり、ふれあいが深まってきました。かつて学校が地域の文化センターであったとき、リーダーは学校の先生でしたが、今、コミスクでは、地域に住む私たちが先生たちとともに、私たちの手でグループを作り、リードしていく力を身につけつつあります。

しかし、児童数の減少とパートなどの仕事を持つ主婦の増加により、コミスクなどの世話をする役員のなり手が、なかなか決まらずこれまで続けてきた行事も見直しを迫られる現状です。

とはいって、「継続は力なり」の言葉通り、開設当初より活動を続け、多大の成果を上げているグループも、数々ありますし、季節の風物誌として定着しつつある行事もあります。

課題として、次代を担う子どもたちを、地域の人々の手で育み、これまで、地域の発展に貢献してこられたお年よりを大切にする、そんなコミスクであり

たいと思います。

主な行事

- 春-小学校の PTA 総会を待って、精道コミスクの委員総会が開かれ、和やかな雰囲気のうちに新メンバーの所属が決まります。
- 夏-最大のイベント『夏祭り』は、一部が模擬店で、前日からの準備に本当に目の回る忙しさ・どの店も 900 人程用意した品全て完売という成績でした。午後 7 時から第 2 部の抽選会、あらかじめ配られた団扇の番号を、眺めながら喜一憂の瞬間です。
- その後、引続いて星空映画会です。一昨年から地域の一人暮らしの高齢者を、ご招待して喜ばれています。
- 秋-『三世代交流スポーツ大会』にグランドゴルフに挑戦しました。これまでにゲートボール、ペタンク、ウォークラリーや運動会等をやってきました。
- 冬-活動の総決算ともいえる『文化フェスティバル』で、展示部門とステージ部門の二つが発表されました。

山手コミスク（昭和 61/1986 年 3 月 21 日創立）

山手コミスクは、山手小学校を主な活動拠点として、昭和 61 年 3 月 21 日に、創立されました。市内にあるコミスクでは一番最後の組織化でした。しかし、今では山手小学校区の人々との温かいまなざしと学校の諸先生のご理解の下に順調に地域に根を下ろし、今年で、9 年目をむかえ、多くの活動を行っています。

山手小学校区は、芦屋の一番北に位置する奥池町をはじめとして奥池南町、奥山町、山手町、東芦屋町、大原町、船戸町、松の内町、業平町、上宮川町の 10 町で成立する広範囲の区域です。また、他の地域に比べ高齢者の多い地域です。

山手コミスクでは地域の 3 世代交流を目的として、登録団体が一致協力して 3 つの大きな行事をしています。

7 月下旬に「夏の夜の集い」、10 月には「運動会」、12 月初旬の「もちつき大会」の 3 つです、どの行事も 800 名近い参加者があり、子供たちも、とてもたのしみにしています。

この他に、『スポーツ部主催』の活動として、毎年 6 月には、3 世代交流ペタンク大会、夏休みのプール解放・ドラゴンボートレースへの参加、11 月にはアシヤカップ綱引き大会の参加等があります。

『文化部主催』の活動として、芦屋市コミスク合同文化祭の舞台発表・作品展示発表に参加、山手小学校の作品展にコミスクもコーナー展示に参加してい

ます。どれ一つ取っても、簡単に出来るものではありません。スタッフと地域の住民が協力し一丸となって汗を流し運営してきました。どれもやり遂げた時は、言葉に表せない感動が通ってきます。

子供たちは、コミスク活動の中で、多くの事を感じ、成長し、大人は日々、忘れがちな地域に目を向け、高齢者は家から外を見はじめました。やがては、「ふるさと」としていつまでも地域の人たちの心に残る活動が出来ればと願い努力しています。